

ユネスコ

 2022.1
 vol. 1173


オークションに寄託の愛用品贈呈式でマイケル・ジャクソンさんと握手する尾花珠樹事務局長(当時)

マイケル・ジャクソンさんの寄付でスタートした「ユネスコ世界寺子屋運動」

それは1987年夏のことだった。一本の電話が、当時私が在職していた日本ユネスコ協会連盟事務局に入った。マイケル・ジャクソン関係者から「この秋、日本での初公演にあたって、マイケルがユネスコ運動に協力したいといっている」と。ひとつはマイケル愛用品提供によるチャリティ・オークション。もうひとつはマイケルの肖像入りゴールド・メダル発行の許諾。それらの収益金全額寄付の申し出だった。何の見返りも要求せず、その基金にマイケルの名を冠することさえ拒み、ただ基金の用途は「学ぶ機会に恵まれない途上国の子どもたちのために」の言葉を残して、マイケルは日本をあとにした。

私たちはこの基金をシードマネーに、1989年、「ユネスコ世界寺子屋運動」をスタートした。日本滞在中、何日か行動をとともにした私たちが驚いたのは、少年のように無垢で繊細、含羞に満ちたマイケルの実像であった。湘南海岸を走る車の中だったか「あなたはなぜ寄付先に民間ユネスコを選んでくださったのですか？」と質問した。ようやく聞き取れるほどの小さな声で「ユネスコの支援活動がギフトでなくコ・アクションだったから。その理念に共感したから」とマイケルの答が返ってきた。Co-Operative Action 略してコ・アクション。支援する側も受ける側も、同じ地平に立ってともに行動する。これぞユネスコ精神そのものだった。

差別と貧困を平和と共生に変えていくことを、その音楽活動を通して訴えつけたマイケル。『もう見過ごしてはいけない 世界で起こっていることを。僕たちが変えていかなくては 僕たちにはそれができる筈だ』と “We are the world” でマイケルは絶唱している。

尾花珠樹氏(日本ユネスコ協会連盟 当時・事務局長) 寄稿より抜粋
 出典：鎌倉ユネスコ協会 会報(2009年9月1日発行)

CONTENTS

- 1 特集：書きそんじハガキ・キャンペーン
- 3 会長新年挨拶
- 4 TOPICS
 - アフガニスタンの現状
 - 第77回 日本ユネスコ運動全国大会 in 大阪
 - 災害子ども教育支援 創設
- 9 活動報告
 - ブロック別 ユネスコ活動研究会
 - アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム
 - 未来遺産運動
 - 日本ユネスコ国内委員会 関連報告
- 13 会議報告
お知らせ・募集

書きそんじハガキ・キャンペーン

3200件5344万円相当の タンス遺産が寄せられました



書きそんじハガキ・キャンペーン2021（2020年12月～2021年11月）では、全国のユネスコ協会・クラブ計167団体をはじめ、274の企業・団体、学校180校、そして大勢の個人の方々から、書きそんじハガキや切手などの「タンス遺産」が寄せられた。件数は3200件、総額は5344万円相当（ハガキに換算すると113万枚）にのぼった。※2021年11月12日現在（第2事業部）

全国で行われた回収活動から事例を紹介します

沖縄県ユネスコ協会

「ゆいまーる」の助け合い精神で

コロナ禍の中でも前回以上の回収があった沖縄県ユネスコ協会では、多くの学校に寄付の呼びかけを行った。県内のSDGs認知度は10代が最も高いという背景もあり、多くの賛同を得て、中にはキャンペーンを紹介する動画をYouTubeにアップした学校もあった（写真）。「沖縄には『ゆいまーる』という助け合いの精神が日常に浸透しています」とは、沖縄県ユネスコ協会担当者。「ゆいまーる」の心が、教育支援へとつながっている。



KBC学園未来高等学校沖縄の生徒と沖縄県ユネスコ協会の石垣皓次理事長。
「コロナ禍でも広める・伝える方法を考えながら活動した」とのこと

ヤマハ発動機株式会社

従業員一人ひとりの行動で社会貢献

ヤマハ発動機では毎年、磐田ユネスコ協会（静岡県）の呼びかけによる書きそんじハガキの寄付を行っている。昨年は931枚のハガキが集まった。「本社従業員に呼びかけ、多くの枚数を集めることができました（総務部担当者）」。「同社では創業以来、社訓に“企業活動を通じた国家社会への貢献”をうたい、この精神に基づき従業員一人ひとりの行動を通して社会に貢献することを掲げている。



ヤマハ発動機から磐田ユネスコ協会へハガキを贈呈



皆さまからのタンス遺産がコロナ禍の支えに

新型コロナウイルスの影響が長期化するなかで、困窮する人びとの増加とともに、世界的に子どもたちの教育が停滞・中断している。これに対して、UNESCOをはじめさまざまな機関が警鐘を鳴らしている。各国の寺子屋でも、中途退学した児童生徒向けのクラスを強化し、貧困層向けの収入向上活動をするなど、子どもたちが教育をあきらめるケースを少しでも減らす取り組みを続けている。



ネパール 自宅子どもから親に識字を教える新しい取り組み「家庭内識字クラス」

カンボジア 小学校クラスはマスク着用で人数を調整して行われた



カンボジア

収入向上活動として
寺子屋で養牛に取り組んだ



書きそんじハガキ・キャンペーン2022にご協力ください！

今回のキャンペーンで使用する回収グッズのデザインテーマは、「コロナでも世界の学びを止めない！」です。一人でも多くの人びとが教育の機会を得られるよう、皆さまのご協力をお願いします。



←キャンペーン参加申し込み、
回収グッズの申し込みは
こちらから。

キャンペーン専用サイト

<https://www.unesco.or.jp/terakoya/kakisonji/>



←こちらでも、概要や申し込み方法を
ご案内しています。

新動画「世界を救おー！おしりとり」篇

<https://www.youtube.com/watch?v=bNm9FfUTxmQ>



←新動画
「世界を救おー！おしりとり」篇、
ぜひご覧ください。



▲ポスター



▲チラシ



◀タンス遺産POST
©DENTSU INC.

昨年に引き続き
株式会社電通の社会貢献で
新しいグッズと動画ができました！
ぜひご活用ください。

2022年 会長新年挨拶

国を超えて連帯し、 支えあう社会を目指して



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟 会長

佐藤 美樹

会員の皆さま、ご支援者の皆さま、明けましておめでとうございます。
今年も皆さまにとって健やかで実り多い年でありますよう祈念いたします。

さて、近年顕在化している貧富の格差や社会の分断は、長期化するコロナ禍がいっそう拍車をかけ、子どもたちの教育にも多くの悪影響をもたらしています。また、日本においては、予測されている巨大地震などの自然災害により、教育の継続が困難になる懸念もあります。さらに、世界に目を向けると、COP26では、人類の活動による地球環境の破壊を防ぐための諸対応が採択されました。

日本ユネスコ協会連盟では、貧困の連鎖を断つ活動を引き続き展開するとともに、新たに今後の災害発生を見据えた「災害子ども教育支援事業」を創設し、子どもたちの教育を守る取り組みを一層推し進めてまいります。

ときに、アフガニスタンでは政情不安と治安悪化による人道危機が続いており、カブール事務所は一時閉鎖、寺子屋活動も再開の目途が立っていません。10名の現地職員の身の安全は確保していますが、依然として厳しい状況にあります。私たちは、21年前からアフガニスタンの教育・文化支援に携わってきました。光が見えない現在の状況にあっても、アフガニスタンの人びとがこれまでに寺子屋で得た学びは、誰にも奪えるものではなく、教育が彼らの未来をつなぐ希望と力になることを願っています。ここに改めて、不安な情勢の中で年を越したアフガニスタンの仲間に対し、連帯の心を持ち続けたいと思います。

私たちはこれからも、皆さまとともに支えあい、平和で持続可能な社会の実現に向けたユネスコ活動の発展に取り組んでまいります。本年もよろしく願い申し上げます。

Afghanistan

アフガニスタンの現状

8月半ばに政権が変わったアフガニスタン。それから3ヵ月が過ぎた首都カブールでは、幸いにも当初予想されたような大規模な虐殺などは発生していない。他方で新政権の能力不足・経験不足は、これからアフガニスタンという国のかじ取りをきわめて困難にしている。世界寺子屋運動を進めてきた日ユ協連カブール事務所も閉鎖状態になっている。

いまカブールに暮らす人びとの一番の懸念は、生活がだんだん困難になってきていることだ。銀行預金を引き下ろすには、長い行列に並ばないと窓口までたどり着けない。窓口にたどり

着いても、預金残高の5%しか引き下ろせない状況が続いている。また、近ごろはしょっちゅう停電が起きている。プロパンガス価格も高騰し、政変前の倍以上になってきた。このままでは最々底辺国化してしまうのではと、アフガニスタンの復興に関わってきたアフガン人は大きな危惧を抱いている。

アフガニスタンの人びとに何かできることはないか。非常に限られた選択肢のなか、日ユ協連では可能な手段を探している。

(第2事業部：関口 広隆)

カブール事務所 ヤマ・フェロジ所長からのメッセージ

日本の皆さま。日ユ協連カブール事務所所長のヤマ・フェロジです。

私は2002年からカブール事務所で働いています。これは私の人生の中で最も重要な一章です。仕事で何度か日本を訪れましたが、日本の人びとや文化について多くを学ぶことができ、日本を第二の故郷と考えています。

私は自分の仕事や、国民や国のためにしてきたことを誇りに思っています。カブール事務所では、何千人ものアフガニスタン人に教育と収入を得る機会を提供し、最も恵まれない人びとのために寺子屋を建設したことは、皆さんご存じのことと思います。

しかし、約3ヵ月前、私たちの生活は一変しました。すべてが一日で崩壊したのです。8月15日にタリバンが権力を握って以来、安全上の理由からカブール事務所は閉鎖されました。国際的機関で働いていた人びとが危険にさらされているため、私たちも不安な日々を過ごしています。

当初は、すべてがうまくいくだろうという希望もあり

ましたが、いまではほとんど希望がないようです。教育部門は他の部門と同様崩壊し、教師には給料が支払わ

れず、貧困は増大し、書ききれないほどたくさんの難しい問題が日常的にあります。20年間の努力と結果が消えてしまい、私たちが教育を提供した何千人もの人びとが無力になってしまったと思うこともあります。

いま、状況はより深刻になっています。私たちが最優先するのは、自分自身と家族の安全です。国際機関で働いていた何人かの人と連絡を取っていましたが、彼らが全員避難したことを知ったとき、私がここで生活し働く希望は残されていませんが、状況が許す限り、国民と国のために働くことを約束します。

最後になりましたが、皆さまのご支援に感謝いたします 🙏❤️。
カブールのヤマ・フェロジ

カブール市内のようす (撮影:ヤマ所長)



現地スタッフへの“絆メッセージ”をお寄せください

アフガニスタン事務所には、現在10名のアフガニスタン人職員が在籍しています。現地職員への絆メッセージを、下記メールアドレスまでお寄せください。いただいたメッセージは事務局で取りまとめの上、翻訳し、現地事務所へ送ります。以下の項目を明記の上、200字以内、写真や画像は1枚以内で。締切は2022年2月末日。

[送 り 先] kikaku@unesco.or.jp (企画部 広報課 機関誌担当宛)

[必要事項] ■ 件名: 絆メッセージ

■ 会員種別 (①ユネスコ協会・クラブ ②維持会員 ③賛助団体会員 ④個人会員 ⑤一般(メルマガ登録者・学校・ご寄付者など))

■ 所属名(ユネスコ協会・クラブ名/企業・団体名など)

■ 氏名およびフリガナ ■ メッセージ: 200字以内

※団体・個人は問いません ※現地職員からの個別のお返事は差し控えていただきます

message

第77回 日本ユネスコ運動全国大会 in 大阪

2021年12月5日(日)、桃山学院教育大学(大阪府堺市)を会場に「第77回日本ユネスコ運動全国大会 in 大阪」を「いのち輝く持続可能な世界を繋ぐ～大阪から世界へのメッセージ～」というテーマで開催した。2020年度の全国大会(山口県宇部市)は新型コロナウイルスの感染拡大により中止になったため、2年ぶりの全国大会開催となった。また、日本のUNESCO加盟70周年を記念する大会ともなった。会場には近畿ブロックの会員約160名が参加し、140名ほどがYouTubeライブ視聴でオンライン参加した。さらに、公共施設での視聴会を実施したユネスコ協会も15協会あり、計400名ほどが会場またはオンラインで参加した。

(第1事業部：鴨志田 智也)

開会式

開会式では、日本ユネスコ協会連盟の佐藤美樹会長、全国大会実行委員長の中室雄俊氏(奈良ユネスコ協会会長)が主催者挨拶を行い、来賓として外務省の曾根健孝国際交流文化審議官および文部科学省の田口康国際統括官がオンラインで祝辞を述べられた。また、会場を無償で提供いただいた桃山学院教育大学の中西正人学長からもご挨拶をいただいた。さらに、UNESCOのオドレー・アズレー事務局長、大阪府の吉村洋文知事、北京市ユネスコ協会のソン・リジュン会長からのメッセージが読み上げられた。



開会式のようす。会場には近畿ブロックの会員が参集した

ビデオメッセージ



本大会の開催にあたり、山中伸弥氏(京都大学IPS細胞研究所所長・教授)、廣瀬忠子氏(芦屋ユネスコ協会名誉会長)、菅原昭彦氏(気仙沼市商工会議所会頭、気仙沼ユネスコ協会副会長)からビデオメッセージが寄せられた。

実践発表

近畿ブロックの青年が実践事例を発表

■神戸ユネスコ協会青年部・日本経済大学ユネスコクラブ

神戸ユネスコ協会青年部は、同青年部が行う日本語学校への食料支援をはじめ、多文化共生プログラム、「神戸ユネスコ国際キッズカフェ 子ども食堂」での各国の料理体験などの国際交流事業について紹介した。また、日本経済大学ユネスコクラブは、海外に留学している青年と会場をつないで新型コロナウイルスによる社会や教育への影響や現状について発表した。

■箕面ユネスコ協会

東日本大震災支援を目的として設立された箕面ユネスコ協会が、宮城県気仙沼市大島や丸森町、熊本県西原村、岡山県真備町で行ってきた地道な災害支援活動について紹介し

た。また、地域のNPOや学校との協働を大切にしながら、ネパールでの支援活動や学校でのワークショップ、出前授業も積極的に行っていることを報告。青年メンバーは、気仙沼や岡山でのボランティアに参加して学んだことや、災害支援、スタディツアーで訪れたカンボジアについて、出前授業などを通じてこれからも伝えていくと抱負を述べた。



箕面ユネスコ協会青年部による災害ボランティア

▼パネルディスカッション

「誰ひとりとり残さない社会の構築」をテーマに、3名のパネリストがそれぞれの専門分野の視点から、明日からのユネスコ活動に生かすことができる有意義なディスカッションを行った。

播磨 靖夫氏（一般財団法人たんぼぼの家 理事長）

障害のある人たちの生きる場「たんぼぼの家」の理事長である播磨氏は、「わたぼうし音楽祭」で作品が入賞した男性とその母親のインタビュー映像を紹介し、障がいのある人のアートを通じて「生きることは表現すること、表現することは生きること」というメッセージを伝えた。障がい者アートは美術の世界では評価されることがなかったが、UNESCOの「文化の多様性に関する宣言」も活動の後押しになったと述べた。最後に「世界に希望があるとしたら成熟した市民社会にある」という言葉を紹介し、市民を育てていく活動としての民間ユネスコ運動への期待を述べた。そして、これからのユネスコ活動は、異なったものに橋をかける「ブリッジ」の役割を担うことが重要だと強調した。

藤井 睦子氏（大阪府 健康医療部長）

新型コロナウイルス対策の最前線に対応にあたった藤井氏は、大阪府における第1波から第5波までの新型コロナウイルスの感染状況と、大阪府による活動自粛要請（学校、飲食店、イベントなど）や感染対策についてデータを用いて詳しい説明を行った。新型コロナウイルスの感染拡大によって、陽性者・医療従事者への中傷、世代間の対立や若者からの不満（重症化リスクの低い若者も自粛を求められるなど）、貧困や失業問題、休校による子どもの居場所喪失、情報へのアクセスやリテラシーの格差など、さまざまな問題が顕在化した。このような課題に対して、医療従事者への基金の設置、エッセンシャルワーカーなどによる感染対策の努力、「見守り活動」などの行政による支援や子ども食堂、そして情報格差へのサポートといった社会的な結束、共感、支援が広

がっている事例を紹介し、「withコロナ」時代の「誰ひとりとり残さない社会」の可能性として提示した。

中村 浩也氏（桃山学院教育大学 人間教育学部教授）

スポーツ医学と教育学が専門の中村氏は、自身の海外でのさまざまな体験に加え、スポーツ選手や学生を指導した経験から、上下関係や理論だけの指導に限界を感じ、個々が主体的に「自分はどうなりたいか」を問いかけられるよう、教育による人間形成の重要性について述べた。また、実践事例としてカンボジアでのスポーツによる支援活動と、地域コミュニティにおいて誰でもスポーツに親しめる環境をつくる「桃教スポーツアカデミー」を紹介した。

安井 裕司氏（日本経済大学 教授）コーディネーター

「誰ひとりとり残さない」状況とは、すべての国や人びと、社会において、SDGsの目標が満たされている状態であり、取り組みにおいては、最も取り残されているところを優先すべきであると指摘した。UNESCOと民間ユネスコ運動の歴史を総括し、民間ユネスコ運動が「マージナルな（周辺化された）」存在ではないかと述べ、そのような存在だからこそ「withコロナおよびpostコロナ」の時代にできることがあるのではないかと、「最も遅れているところに手を伸ばす」ことができるのではないかと問題提起した。

.....

本大会は、新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、一部ではあるが対面開催が実現した。これも近畿ブロックの皆さまのご尽力の成果であり、全国の会員にとって実りのある大会となった。

次回開催地は **千葉県!!**

2022年度の「第78回日本ユネスコ運動全国大会 in木更津」は2022年11月26日（土）に木更津市の「かずさアカデミアパーク」で開催予定。詳細は今後「ユネスコ協会便」で告知予定。



鈴木 光

これがアンテナ…？
もっとつながる未来が
実現しそうですね！

このフィルム、肉眼では分かりませんが、超微細な5Gアンテナが印刷されているんですって。無色透明なフィルムだから、スマホやパソコン、家電やクルマなど、いろんなシーンや用途で活用できそう。

この見えないアンテナがあたりまえになったら、私のメガネも5Gにつながるかも…？

未来のあたりまえをつくる。

DNP

大日本印刷株式会社

災害子ども教育支援 創設

いつか起こる災害から
子どもたちの未来を守るために

日本ユネスコ協会連盟は、東日本大震災以降の10年間で培ってきたノウハウを活かし、今後起こり得る災害に備える新たな教育支援事業を創設した。この新規事業を企画段階から牽引し、日ユ協連の災害支援や減災教育などにご尽力いただいていた地球環境学博士の及川幸彦氏に、事業の背景や意義について伺った。

(企画部)



「教育の分野で被災地を支援するのはユネスコ活動だからこそ」と語る及川氏

全国どこで災害が起ころうと

東日本大震災から10年が経ちましたが、この間にも熊本地震や西日本豪雨など、さまざまな自然災害が起きています。災害は多発し、激甚化・広域化していて、当然そこでは学校や子どもたちが被害を受けています。これまで日ユ協連は災害の都度、寄付を募って対応していましたが、どうしてもタイミングが遅れるし、支援規模も不安定になってしまいます。そこで、あらかじめ原資を確保しておき、全国どこで災害が起ころうと、適切かつ迅速に支援ができるよう準備しておこうというのが「災害子ども教育支援」です。日ユ協連はこの10年間、被災地に寄り添った支援を続けてきました。そのスキームの蓄積があったからこそ構築できた事業だと思います。

公助では行き届かないところに「N助」を

新規事業では大きく3つの支援が予定されています。学校への支援、奨学金支援、そしてユースのボランティアへの支援です。これまでは災害ごとに別々の基準で支援に取り組んできましたが、今回は被災の対象や被災レベルなどの基準を明確に統一します。これによって、より迅速・的確に公平性を持って支援ができるようになるのです。

学校現場では、例えば個々の教材・教具や部活動の費用のようになかなか行政の手が届かない部分があります。そういうところに細やかに対処するのが日ユ協連の使命だと思います。私はそれを、NPOとNGO、さらにネットワークのNで「N助」と呼んでいます。行政と違って、必要なところにスピーディに支援できるのはN助だからこそです。

また、ボランティア支援は、被災地の人びとをユースが支援することで、ユースの学びや成長にもつながります。ですから、これは次代を担うユースの「学び」に対する支援ともいえるのです。

東日本大震災で突きつけられた現実

震災当時、被災地・気仙沼で教育行政の管理職として教育復興の最前線にいた私は、明日がまったく見えず、走りながら考えるという毎日でした。そんな中、テレビの取材を受けた中学生が「私、高校には行かない」といったんです。「お父さん、お母さんが被災して仕事がないし、家もないから、早く就職して助けるんだ」と。行きたくないわけじゃない。行きたいけど行かないと健気に強がっている。当時、少なくとも数の中学生が、このような考えを持っていたと思います。この子たちを高校に進学させられない社会っていったい何だと思いました。それで、彼らが何とか教育を受け続けられ、未来をつなげられるようにと、日ユ協連と相談して生まれたのが、いまでも続く2つの奨学金事業です。新事業でも、この返済不要の給付型奨学金を受け継いでいきます。

教育の再生は地域の復興を牽引します。逆にいえば、教育が再生しないと地域は希望を失い崩壊します。それを私は被災地で目の当たりにしました。地域の持続可能性を象徴する、保証する場として学校があるのです。だから、教育の再生と復興への支援は欠かせないし、ユネスコ活動でそれをやるのは必然だと思っています。

.....

PROFILE 及川 幸彦 おいかわ・ゆきひこ

地球環境学博士（京都大学）。東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員。日本ユネスコ協会連盟理事。2011年に発生した東日本大震災の際には、気仙沼市立学校の管理職として学校現場の危機対応にあたり、同年4月から同市教育委員会で教育再生・復興に取り組む。震災の経験と教訓をふまえた新たな防災教育やESDなどの研究実践、教育復興の記録集積に尽力し、国内外に幅広く発信する。主な著述は「Education for Sustainable Development and Disaster Risk Reduction」(Springer・編著)、「Disaster Recovery」(Springer・共著)など。



新事業「災害子ども教育支援」概要

近年、台風や豪雨、土砂災害などが激甚化しており、毎年、日本各地で多くの自然災害が発生している。また、今後30年以内に南海トラフ地震や首都直下地震などの巨大地震が70～80%という高い確立で発生するとも予測されている。

日本ユネスコ協会連盟は、今後起こる自然災害に対し、これまでの支援で培ってきた知見や経験を活かし、大規模災害に見舞われた学校や子どもたちのための3つの教育復興支援を開始する。

災害子ども教育支援にご協力をお願いします

本事業では、発災時に迅速な支援ができるよう、平時から募金をつのり、指定募金として積み立てます。皆さまのご理解と温かいご協力をお願いいたします。

[募金方法]

■ 郵便振替 00190-4-84705

加入者名：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
※通信欄に「災害」と記入してください。 ※振込手数料免除

■ 銀行振込【災害子ども専用口座】

三菱UFJ銀行 神田支店 普通0599809

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

※振込手数料免除（ただし、三菱UFJ銀行の本店・支店窓口または同行のATMからの振り込みに限る）

支援内容

- 1 被災地の学校などに対する教育復興のための支援
- 2 被災地の子どもに対する給付型の奨学金支援
- 3 復旧・復興作業を支えるユースによるボランティア活動に対する旅費の一部補助

※本事業における支援対象（災害規模、対象、内容など）の詳細は別途定めたガイドラインに基づき実施します。



Innovating Energy Technology

エネルギー技術を、究める。

電気、熱エネルギー技術の革新の追求により、
エネルギーを最も効率的に利用できる製品を創り出し、
安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献します。



富士電機株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2(ゲートシティ大崎イーストタワー) TEL.03-5435-7111

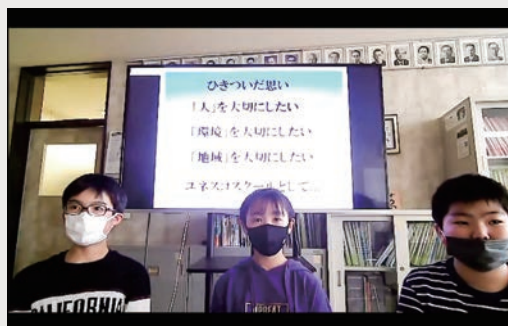
ブロック別ユネスコ活動研究会

2021年度の「ブロック別ユネスコ活動研究会」は、コロナウイルス感染症対策のため2ブロックで中止になったものの、全国大会を開催した近畿以外の6ブロックで、対面方式と、オンライン方式、そして対面・オンラインを併用した「ハイブリッド方式」でそれぞれ開催した。新しい試みで技術的な問題も若干あったが、各主管ユネスコ協会の努力によってコロナ禍でのブロック研究会が無事に開催できた。会場を別に設けてオンラインで視聴する「サテライト方式」で参加した会員もいた。対面でのブロック研究会はほかの会員と顔を合わせることができ、モチベーションの向上につながる。今後は対面でのブロ研が再開されていくことを期待したいが、民間ユネスコ運動としては情報の共有や発信のため、オンラインでの取り組みは続けたいと考えている。

北海道ブロック・ユネスコ活動研究会

■10月9日(土) 北海道小樽市 ■主管：小樽ユネスコ協会

「持続可能な社会の実現に向けて～私たちにとってのSDGs、地域ユネスコ活動でなしうること～」と題し、オンライン形式で開催された。会場参加は約20名、オンライン参加は約130名だった。小樽商科大学の穴沢真学長による基調講演「大学の国際化について」のほか、小樽ユネスコ協会、知床ユネスコ協会、江差ユネスコ協会、ユネスコスクールである小樽市立高島小学校が、それぞれの地域で取り組んでいる活動について報告を行った。コロナ禍での開催であったが、今年度はオンラインを活用することで、協会同士の交流が久しぶりに実現した研究会となった。(第1事業部：戸谷 優作)



関東ブロック・ユネスコ活動研究会

■10月2日(土) 栃木県足利市 ■主管：開倫ユネスコ協会・足利ユネスコ協会

「すべての人に平和を-多文化共生とSDGsの推進-」をテーマにオンラインでの開催となったが、参加した7つの協会がサテライト会場を設置し、参加者は200名を超えた。主催である栃木県ユネスコ連絡協議会の関係者は開倫ユネスコ協会の事務所に集まり、4つの部屋を使いながら全体会・分科会の運営を行った。

関東では例年、分科会を開催しており、今年度も各県の要望により、事前収録などの工夫をして、4分科会(①SDGs/ESD・ユネスコスクール、②平和の心・国際理解、③世界遺産・世界寺子屋運動、④ユネスコ活動の役割と広がり)で9協会・クラブが事例発表し、コロナ禍でも精力的に活動する各団体のようすを共有した。(第1事業部：井上 葵)



中部東ブロック・ユネスコ活動研究会

■11月20日(土) 神奈川県横浜市 ■主管：神奈川県ユネスコ連絡協議会

「持続可能な社会を目指して～SDGs推進～」をテーマに開催された。新型コロナウイルスの感染が拡大する中、神奈川県ユネスコ連が一体となってオンラインでの開催を一から検討し、運営に際しては他県の協力も得ながらの研究会となった。オンラインで約60名が参加した。

開会式、国内委員報告の後、神奈川県ユネスコ連理事小島政行氏がSDGsをさまざまな角度から改めて検証する講演を行った。中部東ブロック各県からの事例発表では、若い世代による実践活動が多く取り上げられ、これからのユネスコ活動の可能性を大いに感じさせる研究会となった。(第1事業部：尼子 美博)



中国ブロック・ユネスコ活動研究会

■10月9日(土) 鳥取県鳥取市 ■主管: 鳥取ユネスコ協会

『地球に寄り添う持続可能な社会づくり』ジオパーク(地球の公園)＝足元から考えよう』をテーマにオンラインで実施され、約160名が参加した(鳥取ユ協の関係者のみ会場参加)。ジオパークの歴史や制度について、また山陰のジオパークについての講演などで「山陰海岸ジオパーク」を学ぶことができ、地元の青翔開智中学校(QRコードつきゴミ箱のアイデア)や鳥取西高校(水耕栽培や観光甲子園)のプレゼンも行われ、学生の画期的な活動が共有された。また、ユネスコ協会によるジオパークやESDの活動紹介(鳥取砂丘の清掃など)のほか、「中国地区内ユネスコESD活動団体(個人)顕彰」として地域でESD活動を実践しているプロジェクトや学校、個人が表彰された。(第1事業部: 鴨志田 智也)



四国ブロック・ユネスコ活動研究会

■9月19日(日) 愛媛県松山市 ■主管: 北条ユネスコ協会

『民間ユネスコ運動』として文化活動を活発に」というテーマで北条ふるさと館で開催された。全ブロックを通して唯一の対面のみの開催だったが、会場での検温や消毒、登壇者への抗原検査の実施など感染対策を徹底した上で約50名が参加した。詩人の坂村真民の人生、北条出身の脚本家である早坂暁氏と渥美清の関係や渥美清と俳句についての講演、ピアノとフルートの演奏会など文化的な刺激に溢れる会となった。また会場では、北条ユネスコ協会が24年間行っている小中学生による小石アート「小石の芸術展」も開催され、優秀作品受賞者が表彰を受けた。(第1事業部: 鴨志田 智也)



九州ブロック・ユネスコ活動研究会

■10月16日(土) 宮崎県都城市 ■主管: 都城ユネスコ協会

広範囲に渡ってユ協が存在する九州ブロックでは、現地開催とオンラインを併用するハイブリッド形式での開催が検討され、当日の現地参加は約40名、オンラインでの参加も約40名と例年とほぼ変わらない規模での開催となった。

会場での事例発表/活動報告とオンラインでの講演は「SDGsとユネスコ活動」というテーマで統一され、参加地はバラバラでも一体感のある会となった。その中でとくに中学生、高校生そして青年部による活発な活動紹介は、コロナ禍でも工夫次第でSDGsに取り組めることを証明し、多くの参加者を勇気づけた。

(第1事業部: 井上 葵)



2021年度、中止となったブロック研究会

以下の2ブロックは、新型コロナウイルスの影響でやむを得ず中止となった。

東北ブロック・ユネスコ活動研究会

■10月16日(土) 青森県青森市

■主管: 一般社団法人青森県ユネスコ協会

テーマ: 「特徴ある自然や地域文化の継承と未来に向けた創造」

- 自然と歴史に学び、活力ある地域社会をつくらう -

中部西ブロック・ユネスコ活動研究会

■9月25日(日) 岐阜県多治見市

■主管: ユネスコクラブ日本ライン

テーマ: SDGsの過去・現在・未来～Post2030を見据えて～

アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

オンライン教員研修会開催

助成校27校の先生32名が参加し、9月20日(月)・21日(火)にオンライン教員研修会を開催した。本事業は、災害時に地域の重要な防災拠点となる「学校」の減災教育を支援し、全国の小中高校を対象に活動助成を行うとともに、教員研修会では東日本大震災の被災地域から学び、各学校の減災教育の改善を目指している。

新たな視点から防災・減災教育を学ぶ

研修参加者は、講師の及川幸彦先生(東京大学)、上田和孝先生(新潟大学)から次のようなことを学んだ。

- ・子どもたちはいつどこで災害に遭うかわからない。だからこそ、子どもたちが主体的に判断し、自分で災害から命を守る力を育む減災教育が必要である。
- ・減災教育におけるNPOやネットワークによる支援の必要性、減災教育のカギは学校と地域とのつながりである。

気仙沼の被災地の経験と実践から学ぶ

東日本大震災の被災地域との中継では、気仙沼市教育委員会小山淳教育長の講演、同市大谷小、階上中、階上中、宮城県多賀城高校の発表が行われた。階上中の生徒の実践発表では、地域総合防災訓練や小学校と連携した防災啓発活動、震災遺構での語り部活動など、自らの経験や学びを踏まえた報告があり、参加者とは活発な対話が行われた。

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館との中継では、佐藤健一館長の講義、学生語り部の熊谷樹氏と佐藤館長、参加者との意見交換が行われた。熊谷氏は自らの経験と語り部活動に基づいた話で防災の大切さについて語った。



▲伝承館の語り部である熊谷樹氏(左上)、同館長の佐藤健一氏(右下)と、参加した先生方が意見交換を行った



▲階上中の生徒と参加した先生方が対話した

研修を活かした実践成果 (助成校の報告より)

助成校は、教員研修会で学んだことを自校の減災教育の改善に活かしている。例えば、次のような報告があった。地域やNPOとの連携構築が課題だった小学校では、研修会での学びによって、児童が地域とつながり、町を支えるひとりとして主体的に行動できるようになった。別の小学校では、子どもたちに災害の知識を伝えることが中心の指導だったが、教員研修会で子どもたちが自ら命を守る力を育てる大切さを学び、自校の減災教育の内容を改善した。その結果、子どもたちの主体性が見られるようになったと同時に、積極的に地域と関わる意識も高まるという成果があった。

学校の減災教育においては、地域との連携は不可欠である。各ユネスコ協会・クラブの皆さまには、今後も、地域の防災拠点となる学校と地域をつなぐご支援をよろしくお願いします。

(企画部:藤田 将章)

未来遺産運動

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、新たな「プロジェクト未来遺産」の募集・登録は昨年に引き続き中止したが、コロナ禍でも活動を推進している「プロジェクト未来遺産」の中で、とくにコロナの影響を受けている無形文化（伝統行事や民俗芸能など）を守り、継承する活動に対して、下記の支援を実施した。

〔無形文化分野への支援〕

①「コロナ特別応援金」を支援

2021年10月8日（金）にオンラインで開催した未来遺産委員会での審査を経て、8プロジェクトへ「コロナ特別応援金」として10万円の支援を決定した。

②9団体でオンライン交流会を開催

2021年11月19日（金）、「プロジェクト未来遺産」の9団体が参加し、活動を推進していく上での課題や工夫について情報交換を行った。各団体が活動を紹介し、普及広報、活動の広がり、活動資金、技術的な課題、伝統の維持・継承などのテーマについて発表した。とくに、広報面や資金の調達方法についての工夫や課題のほか、後継者育成の観点から、地域の子どもたちや教育機関との連携方法など、未来遺産委員会委員からの意見も交えながら活発な議論が交わされた。

今後も、他の分野の「プロジェクト未来遺産」への支援を検討・実施していく予定である。

（第1事業部：井上 葵）

▼オンライン交流会では各団体が活動を紹介。写真は沖縄県の中城村南上原組踊保存会による創作組踊「糸蒲の縁（いとがまのえん）」練習風景



【当日参加した9団体】（登録年順）

団体名(団体所在地)	プロジェクト名
一般財団法人 葵プロジェクト（京都府京都市）	葵プロジェクト
あまわり浪漫の会（沖縄県うるま市）	現代版組踊「肝高の阿麻和利」と「キムタカのマチづくり」
香川町農村歌舞伎保存会（香川県高松市）	みんなでかぶこう!! プロジェクト～農村歌舞伎祇園座
長岩屋修正鬼会保存会（大分県豊後高田市）	鬼と炎が舞う長岩屋修正鬼会
山口鷲流狂言保存会（山口県山口市）	山口鷲流狂言伝承者育成プロジェクト～子ども達に残す鷲流狂言～
福野夜高祭連絡協議会（富山県南砺市）	福野夜高祭～「災厄からの復興の心」を引き継ぐプロジェクト～
始良市加治木町くも合戦保存会（鹿児島県始良市）	「くも合戦」保存プロジェクト
美濃市仁輪加連盟（岐阜県美濃市）	美濃流し仁輪加～地方に華咲く言葉の文化～
中城村南上原組踊保存会（沖縄県中頭郡中城村）	創作組踊「糸蒲の縁」で地域の子ども達を育み新たな文化を繋ぐ

※未来遺産運動は、企業や個人による募金で支えられています。

日本ユネスコ国内委員会関連報告

令和3年度ユネスコ未来共創プラットフォーム事業「全国セミナー」

2021年12月4日（土）、標記事業（主催/文部科学省・一般社団法人SDGsプラットフォーム）がオンラインで開催され、YouTubeライブ配信も行われた。2021年は日本がUNESCO加盟70周年を迎えたことから、テーマは『日本ユネスコ加盟70周年記念～ユネスコ活動が「自分ごと・自分たちごと」になる明日（あした）』とされた。日本ユネスコ協会連盟からは鈴木佑司理事長、見上一幸理事が出席した。全体会では、ユネスコスクール、ユネスコ世界ジオパーク、ユネスコエコパークなどの全国のユネスコ関連団体による取り組み事例の紹介と意見交換が行われた。その中で、地域のユネスコ協会を代表して、仙台コ協と杉並コ協も実践を発表した。

また、分科会は「地域資源を活用した地方創生」「国際化・異文化理解・多様性」「地球・地域の環境と私たちの取り組み」の3つに分かれ、グループワーク形式を中心に進められた。各分科会はユネスコ関係者だけでなく、学生や一般の方など所属の異なる参加者で構成され、事例発表から得た気づきの共有や情報交換など、参加者同士の話し合いが活発に行われた。

最後に、佐藤真久氏（標記プラットフォーム事業運営協議会座長、東京都市大学大学院教授）がまとめを行った全体会では、多様な主体による協働の必要性が改めて強調され、越境コミュニケーションを深める場としてプラットフォーム事業への期待が述べられた。

（第1事業部：戸谷 優作）

▼仙台ユネスコ協会が青年部活動の実践発表を行った



理事会・評議員会報告

■第544回理事会

9月11日(土)、オンラインにより開催した。

I. 協議事項

・部会等からの報告・提案事項等

- (1) 組織部会
- (2) 財務部会
- (3) 定款・諸規程改定検討部会
- (4) 世界寺子屋運動部会
- (5) 地域代表・青年代表理事会議

⇒審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 報告事項

1. 2021年度 事業進捗報告
2. 代表理事の職務執行状況報告
3. 後援・共催事業
4. 日本ユネスコ国内委員会関係報告
5. ACCUとの更なる連携強化
6. 事務局人事 (9/1)
7. その他 (当連盟の活動紹介動画の視聴 & 各地域での普及方法について意見交換)

■第545回理事会

11月13日(土)、オンラインにより開催した。

I. 決議事項

1. 「災害子ども教育支援」運営委員会の委員の委嘱
 2. 特定資産「災害子ども教育支援積立資産」の新設および「公益事業維持資産」から「災害子ども教育支援積立資産」への振替
 3. 特定資産「普及広報担当資産」の新設
 4. 「使途指定のない遺贈の配分基準」の策定
- ⇒審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 協議事項

1. 部会等からの報告・提案事項等
- (1) 組織部会
- (2) 財務部会
- (3) 定款・諸規程改定検討部会
- (4) 世界寺子屋運動部会
- (5) 地域代表・青年代表理事会議
2. ACCUとの協力関係の構築

⇒審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

III. 報告事項

1. 担当理事からの報告 (「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム オンライン教員研修会」実施報告等)
2. 民間ユネスコ運動70周年ビジョン・ミッション第1期3ヵ年計画レビュー
3. 2021年度 中間決算報告
4. 2021年度 事業進捗報告
5. 代表理事の職務執行状況報告
6. 後援・共催事業
7. 日本ユネスコ国内委員会関係報告
8. 情報セキュリティ監査報告
9. 第53回評議員会議題、第54回評議員会の運営
10. その他

■第53回評議員会

11月27日(土)、書面により開催した。

○報告事項

1. 2021年度以降の理事会運営に関する基本方針
2. 新規事業「災害子ども教育支援事業」について
3. 2021年度 事業進捗報告
4. ACCUとの協力関係の構築

お知らせ・募集

みどりの絵コンクール

三菱UFJ環境財団と日本ユネスコ協会連盟の共催事業。第46回目となる今回は、コロナ禍にもかかわらず、全国の幼稚園、小学校からの応募総数が昨年より約5000点増えました。「みどりの絵部門」では2万6126点から7点(各学年1点)、「わたしが守りたい身近な自然部門」では2502点から2点が最優秀賞に選ばれました。写真は「わたしが守りたい身近な自然部門」の最優秀賞を受賞し、日本ユネスコ協会連盟賞に選ばれた作品です。



▲「おじいちゃんの大切な畑」
坂谷 藍花さん(奈良県大和郡山立矢田南小学校6年生)

「第13期ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト」助成校募集!

日ユ協連は、三菱UFJ銀行のご協力のもと、SDGs達成に向けた「持続可能な開発のための教育(ESD)」を実践するユネスコスクールを対象に、今年度も活動費用の助成を行います。

■助成金額: 10万円枠(60校程度)・

30万円枠(5校程度)

■締切:

2022年1月7日(金) 正午

※詳しくは、特設HPをご覧ください



■事務局人事(管理職)(1月1日現在)

事務局長: 川上千春
事務局次長(兼): 長倉義信
事務局次長(兼): 関口広隆
【企画部】企画部長: 長倉義信
広報課長: 上岡あい
【第1事業部】第1事業部長: 尼子美博
文化事業課長: 青山由仁子
国内事業課長: 鴨志田智也
【第2事業部】第2事業部長: 関口広隆
海外事業課長: 穴戸亮子
【総務部】総務部長: 藤田俊

世界遺産

毎週日曜日午後6時よりTBS系列で放送中

1月~3月ラインナップ

1月 2日	放送休止
1月 9日	放送25周年スペシャル4K8K特別編 富士山の四季(日本)
1月16日	チンクエ・テッレ(イタリア)
1月23日	ウジュンクロン国立公園(インドネシア)
1月30日	アンテケラのドルメン遺跡(スペイン)
2月 6日	放送休止
2月13日	ケープ・フローラ植物保護区(南アフリカ)
2月20日	7つの海を行く 世界遺産の島々(各国)
2月27日	ヴェネツィア共和国の防衛施設群(イタリア・クロアチア)
3月 6日	ローマ帝国の辺境地帯(イギリス)
3月13日	ティワナク文化の宗教的・政治的中心地(ボリビア)
3月20日	武当山の古建築群(中国)
3月27日	ディレクターが泣いた!感動の絶景(各国)

放送予定は変更される事もありますのでご了承ください。

<https://www.tbs.co.jp/heritage/>

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章の精神に共鳴した人びとによって1947年、世界にさきがけ仙台で始まった、民間ユネスコ運動の日本における連盟体です。現在全国に約280のユネスコ協会・クラブがあります。会長: 佐藤美樹 副会長: 青木保・大津和子 理事長: 鈴木佑司